

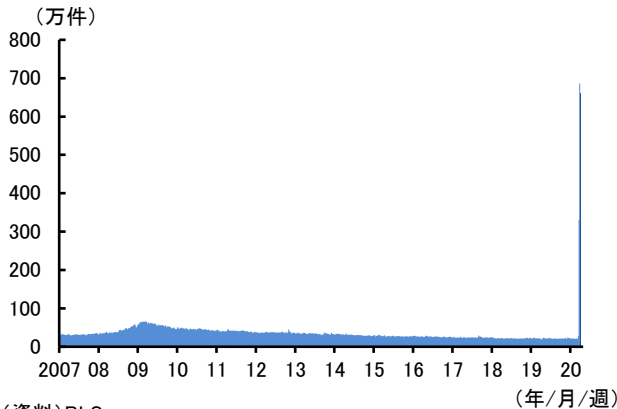
《新型コロナシリーズ8》

## 新型コロナでグローバル雇用危機へ

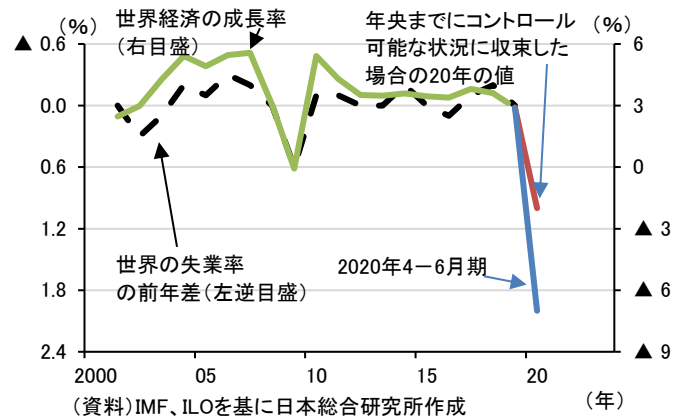
～世界で2億人分の総労働時間が喪失し、失業者は7,000万人増の可能性～

- (1) 新型コロナの感染拡大により、世界中で景気が落ち込み。こうしたなか、米国の失業保険申請件数が3週間で1,600万件を超えるなど(図表1)、過去に例をみないスピードで失業が急拡大。まさに戦後最大のグローバル雇用危機。
- (2) 過去の傾向をみると、世界の失業率は世界経済の実質成長率と連動(図表2)。世界経済が潜在成長率である3%を切ると、雇用者数は減少し失業率は上昇(1%減速で失業率は0.2%ポイント上昇)。4～6月期までの各国の最大GDPの落ち込み幅が直近ピーク対比▲7%減と予想されるため、世界で2億人のフルタイムワーカーに相当する労働時間が喪失。時短等の対応を行ったとしても、2020年央時点で、7,000万人が失業し、失業率は2%ポイント上昇。失業率は7.4%に達し、21世紀以降の最悪の水準へ。なお、リーマンショック時は2,200万人が失業し、失業率は0.6%ポイント増加。
- (3) 業種別には移動封鎖が直撃する飲食・小売・宿泊や、サプライチェーン分断の影響を受ける製造業で失業が増加する公算(図表3)
- (4) 年央までに新型コロナがピークアウトし、コントロール可能な状態に収束した場合、年後半は失業が減少に転じると見込み。もっとも、その場合でも、経済活動の急回復が期待しにくいなか、4,000万人の失業者が残り、失業率は6.5%で高止まりする見通し。逆に21年入り後も感染拡大に歯止めがかからない場合、世界の失業率は21年に2桁近くまで上昇することに(図表4)。

(図表1)米国失業保険申請件数



(図表2)世界GDPと失業率

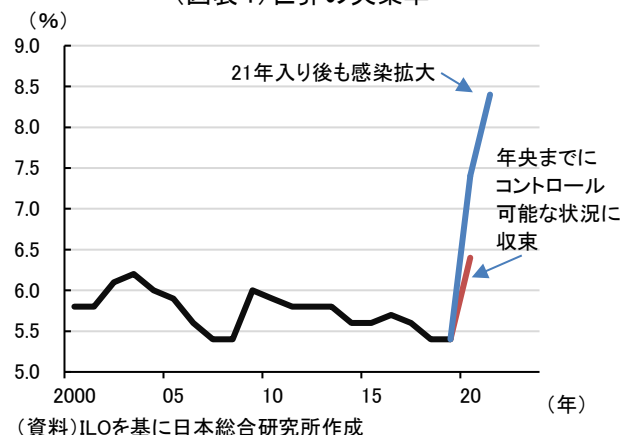


(図表3)予想される世界業種別雇用削減数<推計>

	新型コロナの影響度	雇用削減数(万人)
飲食・小売・宿泊	大	2,463
製造業		1,821
不動産		616
エンターテインメント		352
金融・建設等	中	651
運輸・倉庫		397
農業・水産業	小	452
その他	-	248

(資料)ILOを基に日本総研研究所作成  
(注)7,000万人喪失時の業界別動向。

(図表4)世界の失業率



【ご照会先】 調査部 マクロ経済研究センター所長 石川 智久 (ishikawa.tomohisa@jri.co.jp , 03-6833-6491)

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時時点で弊社が一般に信頼出来ると思われる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがありますので、ご了承ください。